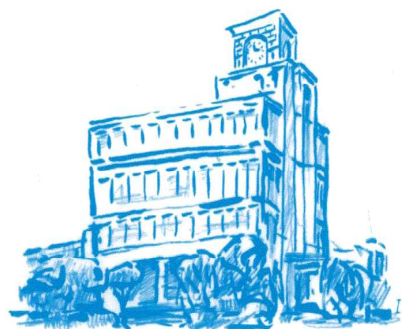


次期学習指導要領に向け「当たり前」を見直す

伊丹市立総合教育センター
所長 太田 洋子

桜の花とともに、新しい年度が始まりました。5月からは元号が「平成」から「令和」に変わります。新しい時代の始まりにふさわしい明るい話題で包まれた一年になってほしいと心から願うばかりです。

そしていよいよ次年度以降新しい学習指導要領が施行されます。「アクティブ・ラーニング」「カリキュラムマネジメント」といった横文字が並び、公布当初は学校現場には大きな戸惑いがありました。研修を重ね、言葉の意味は少しずつ理解されるようになって



きました。しかし、授業や日々の教育活動でその意味に基づく改革が進んでいるかということ、まだまだ満足できる水準には達していないのではないのでしょうか。

次期学習指導要領が目指すところは、学習者の主体性・能動性を引き出しつつ、「知識・技能」に留まらない「思考力・判断力・表現力」の育成です。そして、その理念は「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」と「カリキュラムマネジメント（組織の在り方）」が車の両輪として上手く回ってはじめて実現するのです。一人ひとりの教師が個人で授業を改善していてもおぼつきません。教育課程の編成から評価改善までをすべての教員が参加して練り上げ、当たり前だと思っている日々の実践を見直し、その上で日々の授業の改善に取り組むことが必要なのです。しかし、固定概念に縛られていると、当たり前を意識化して見直すことができにくくなります。

たとえば、生徒が前を向いて講義を聴いている一斉授業の形態はこれまで当たり前に行われてきました。しかし、アメリカの研究者が実施した脳の活動に関する研究では、生徒の脳の活動が講義の間にはほとんど行われておらず、寝ているときよりも低いという結果が出たそうです。ハーバード大学の物理学教授Eric Mazur氏は、この研究から「生徒たちはベッドにいるときよりも講義の間、より休止状態にある」と述べています。（出典；「豊かな鉱脈」日本マイクロソフト株式会社）

早稲田大学の河村茂雄教授は、著書「こうすれば学校教育の成果は上がる」において「当たり前」について次のように述べています。「当たり前という感覚は、その人が意識せずに持っている行動の基準です。〈中略〉人によって当たりの質とレベルは違うのです。組織や集団の中には、その組織や集団のメンバーたちに暗黙に考えられている当たり前があります。高い教育実践をあげている学校は、その教職員集団が持っている当たりの質とレベルが高いのです。単元の内容をわかりやすく説明するのが教員として当たり前と思っている学校と、わかりやすく興味深く学習活動を展開したうえで、ほとんどの児童生徒に確実に理解させてもっと深めたいと思わせるまでが当たり前と思っている学校との違いです」

各学校においては、年度当初にこの当たりの質についてみんなで検討し、その質の向上を図ることが必要ではないのでしょうか。

魅力ある先生とは？

新しい出会いの4月。先生も子どもたちも、新しい出会いにドキドキしたことでしょう。4月の時計台では、子どもの力を伸ばすには…という視点で理想の先生像について考えてみませんか？



普通の教師は、教科書を説明する
優秀な教師は、教科書を理解させる
本物の教師は、子どもの心に火をつける

先生の仕事

学級づくり

しなやかに
生き抜く力
を育てる

授業

範を示す



ヘレンケラー
は、サリバン先生との
出会いで三重苦を
乗り越えました。

野口英世は、
小林先生との出会い
で、世界に羽ばたく
医師になりました。
自分の人生で出会っ
た魅力ある先生はど
んな接し方をしてく
れましたか。

ほめながら…

しかりながら…

どんどん声
をかける

信じて待つ



では、子どもたちに接するには
どんな工夫をしていますか。

- ☆「ほめて育てる」 ☆「厳しく育てる」
- ☆「自分から声をかけて育てる」
- ☆「じっと待つ」 など…。

先生の性格も関係する子どもへの接し方。
根底には、「子どもたちへの深い愛情」があるかが
大切な気がします。

漫画家の手塚治虫氏は言っています。
「子どもは大人からの真剣なメッセージには必ず耳
を傾けてくる感性をちゃんと持っています。」

「こんな教師になってほしい」

平成31年度初任者研修資料より抜粋

教育の究極の目標は、人格の完成

教師に必要な資質

1 情熱

教育や子どもに対する熱い思い・責任感

2 指導力

- ①わかる授業、力のつく授業を実践できる力
(教科指導力・学級経営力・生徒指導力)
- ②学ぶ意欲や達成感や感動を味わわせる
- ③目標を持たせる

3 人間性

やさしさ、礼儀正しさ、謙虚さ、思いやり、正義感、
美しいものに感動する心



今月は理想の先生像について考えました。
子どもの力を伸ばせる教師を目指しましょう。



総合教育センター職員紹介

総合教育センターはさまざまな研修を企画し先生方の「授業力向上」を応援します。また、それぞれに得意なこともあります。ぜひ困った時は、総合教育センターを頼ってください。



- ①担当
- ②得意分野
- ③その他ご相談ください



所長 太田 洋子



主幹 永嶺 香織



主査 塩家 崇生



主査 時村 孝完



主査 奥野 隆哉

- ①研修
- ②授業づくり・学級づくり
- ③生徒指導・体育

- ①教育相談
- ②子どもの関わり方
- ③研究・体育・社会

- ①情報教育
- ②理科教育（物理）
- ③学年経営・研究・情報



主査 村上 大介



主査 長谷 慎一

- ①不登校支援
- ②算数授業の楽しい導入
- ③理科・算数・情報・研究
教育課程・教育評価

- ①初任者研修
- ②数学科教育
- ③生徒指導・情報



総合教育センターの役割

- ☆研修
- ☆調査研究
- ☆教育の情報化
- ☆教育相談
- ☆不登校児童生徒の学校復帰支援

TEL
072(780)2480

情報化グループ
072(780)3344

